

熊川財団奨学生 2名が国際舞台で受賞

第15回モスクワ国際バレエコンクール

2026年7月、ロシア・モスクワで開催された「第15回モスクワ国際バレエコンクール」において、熊川財団の奨学生であるグジェレフ瞭舞さんが男性シニア部門ソロで金賞（第1位）、永井咲良さんが女性ジュニア部門ソロで銅賞（第3位）を受賞しました。



グジェレフ瞭舞さん

男性シニア部門 ソロ

金賞（第1位）



永井咲良さん

女性ジュニア部門 ソロ

銅賞（第3位）

モスクワ国際バレエコンクールは、1969年に創設され、4年に一度、世界屈指の名門・ボリショイ劇場を舞台に開催される、世界で最も権威あるバレエコンクールの一つです。これまで、ミハイル・バリシニコフをはじめ、その後世界の第一線で活躍する数多くのダンサーを輩出してきました。

57年の歴史を迎えた第15回大会には、世界35か国から362名の若手ダンサーが応募。その中から選考を通過した30か国158名がボリショイ劇場の舞台に立ち、世界最高峰の舞台で技術と芸術性を競いました。

その厳しい審査の中で、熊川財団の奨学生であるグジェレフ瞭舞さんと永井咲良さんが、それぞれ金賞、銅賞を受賞しました。

受賞・報道の様子



熊川財団では、未来の舞台芸術を担う若い才能が世界へ羽ばたくための支援を行っています。グジェレフさんはシュツットガルトでの留学を経て、現在ロシアの名門マリインスキー・バレエで活躍しています。永井さんは日本でバレエ学習に励んでおり、世界的な指導を受けて成長してきました。9月からはアメリカの名門バレエ学校への留学が決定しています。今回、財団奨学生である二人が世界の舞台で高い評価を受けたことを、心より嬉しく思います。グジェレフ瞭舞さん、永井咲良さんのさらなる飛躍を期待するとともに、熊川財団はこれからも次代を担う若きアーティストたちの挑戦を支援してまいります。